

ると思ひ出す。初めて日本来た時に会った親切な日本人。あのウェイトレスさんはもういないけど、彼女の笑顔は覚えている。ありがとう」もちろん、投稿者がこの口コミにつけた評価は星5つ、満点だった。彼は食ベログに10店舗以上のレビューを投稿しているが、満点がついているのは、ロイヤルホスト八丁堀店だけだ。

～ 動物で癒される ～

わん道を行く

「これじゃなきゃダメ」“大きな食パン”をくわえて散歩する柴犬がかわいい…

意気揚々と“自分ルール”を貫く柴犬。飼い主「めっちゃ恥ずかしい」

生活にメリハリをつけるため。無駄な行動を減らすため。ゲン担ぎのため。…など、自分の中でこれだけは守りたい、どうしてもこうしたい、といった“自分ルール”を作っている人もいるのではないだろうか。

しかし、それは決して人間だけの考え方ではなかった。“自分ルール”を貫いて散歩する犬が、話題を集めている。その姿がこちら。

パンじゃなきゃダメだって言う

めっちゃ恥ずかしい。笑



SNS に投稿されたのは、トコトコといった文字が見えそうな、かわいらしい柴犬の散歩の様子を撮った写真。しかし、一番に目がいくのはメインの柴犬ではなく、その犬がくわえているもの。それは本物の何倍もある食パン型の大きなクッション。こんな姿を見たら、思わずキュンとしてしまうこと間違いなしだ。

注目的である柴犬の名前は、**小次郎くん**。

飼い主の「めっちゃ恥ずかしい」というのもお構いなしに、自分ルールを貫いている様子だ。投稿者で飼い主の方は、犬猫の保護や里親探し等を行う、一般社団法人ラッキースター代表のシカウチさん。小次郎くんも保護犬だというのが、散歩の時は“食パン”一筋なのか、他にもくわえるものがあるのか？

「かなりの高確率で何かしらくわえてます。笑」

「それはやめて…！」驚きのチョイスも

どれをくわえるかは散歩前に、部屋に落ちているオモチャの中から選んでいるとのこと。直感だったり、慎重に迷いながらだったり、その時々で違うとか。

モフモフしたぬいぐるみがお気に入りだそうで、小さいライオンやパンダのぬいぐるみを連れて行くことが多いそう。チョイスがとてもかわいい！一番印象的だったチョイスは毛布。「ズルズル引きずって行くので『それはやめて…！』とお願いしました。」が、お願いも虚しく小次郎くんは自分ルールを貫いたそう。



「寄り添う人がいればこんなに変わる」

小次郎くんの影響でフォロワーが増え、それに伴い、シカウチさんが代表をしている一般社団法人ラッキースターの保護活動を応援してくれる人も増えたそう。

反響の大きかった小次郎くんの投稿につなげて、シカウチさんは、「やっぱり小次郎みたいな子が沢山いることを知ってほしい。そして寄り添う人がいればこんなに変わることも知ってほしい。」としている。

小次郎くんは、2018年1月頃に以前の飼い主に放棄され、1年間札幌動物管理センターで過ごし、その後、引き取られた経験のある犬だ。引き取られた当初の小次郎くんは、皮膚炎などを患っていて、体が一回り小さくなっていたそうだが、今では、ふさふさの毛並みに、穏やかな笑顔を見せる小次郎くん。幸せが表情に表れている。